

平成 22 年 3 月 16 日
まちづくり調整・都市整備・道路委員会
都 市 整 備 局

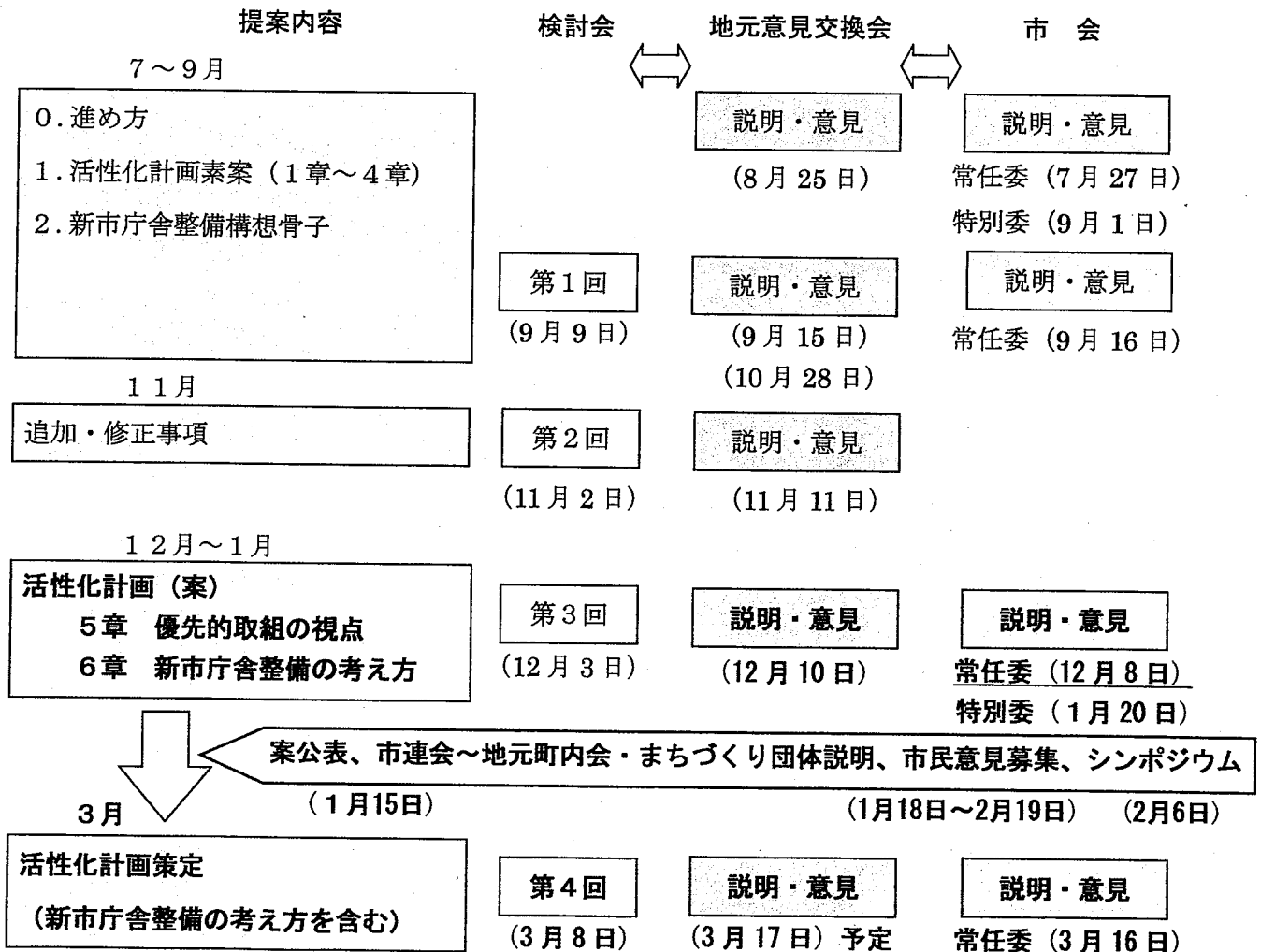
関内・関外地区活性化推進計画について

1 今までの経過と今後の進め方

「新市庁舎整備を核とした事業手法検討委員会」の提言、地元関係者等との意見交換、庁内での検討結果を踏まえて「計画素案」を取りまとめました。これを議論の出発点とし、

- ・様々な立場から幅広い検討を行う場として、**専門家、地元関係者等からなる検討会**を開催してきました。
- ・地元からの意見をいただく場として、関内・関外地区の**町内会等の方々からなる地元意見交換会**を開催してきました。さらに、課題等の共通認識のため各地区の街あるきも実施しています。
- ・**市会**には、検討状況を随時報告し、意見をいただいております。

以上をもとに市としての計画（案）を取りまとめ、地元町内会・まちづくり団体への説明、市民意見募集、シンポジウムを開催しました。市民の方の意見を踏まえて、年度内に「関内・関外地区活性化推進計画（新市庁舎整備の考え方を含む）」を策定してまいります。



「関内・関外地区活性化推進計画（案）」に対する 意見募集結果について（速報）

1. 実施概要

- (1) 募集期間： 平成22年1月18日（月）～2月19日（金）
 (2) 提出方法： 電子メール、ハガキ、ファクシミリ、シンポジウム、郵送又は持参

2. 意見提出者数と意見数

(1) 意見提出者数

[単位：提出者数]

		メール	ハガキ	ファクシミリ	シンポジウム	その他 [持参等]	合計
在 住 地	関内・関外地区	12	13	0	10	1	36
	関内・関外地区以外	85	54	0	28	3	170
	不明	15	2	3	6	2	28
合計		112	69	3	44	6	234

(2) 意見数

ご意見を計画案の内容別に分類した意見数 458件

3. 主なご意見（内容別）

(1) 目指すべきまちの将来像（4つの基本方針）に関する内容 （33件）

- ・ 4つの基本方針について、賛意を示し推進を求める意見
- ・ 個々の方針について、重視すべきものや、具体化へのアイデア等の意見
- ・ 表現方法をもっとわかりやすく、あるいは、4方針から2～3本に集約すべきとの意見 等

(2) 12戦略（優先的取組の視点も含む）に関する内容 （241件）

①結節点強化 （25件）

- ・ 「人の流れ・賑わいなどの課題をあげ、結節点強化は必要」との意見と、「3つの都心を同質化する必要はなく、結節点強化する必要はない」との意見
- ・ 具体的なアイデアとして、「北仲では、賑わいの連続・高級志向・緑化等」、また「港町では、歩きにくさの解消、大学誘致等」、特に関内駅では、「バリアフリー、案内等機能面の改善、貧弱な美観面の改良、また、駅の名称変更（例 関内・関外駅）」を望む意見 等

②軸・ネットワーク （5件）

- ・ 大通り公園軸と開港シンボル軸の連携は、骨格として重要との意見
- ・ 大通り公園自体の問題（両脇の道路等）
- ・ 親水護岸など、街づくりにおける水の復権（派大岡川の復活、中村川の再生）を望む意見 等

③業務機能の再生 （25件）

- ・ 古いビルが多いことを憂い、活力と品格の再生を望む意見
- ・ MM地区等との分担も踏まえ、ビル特性（小規模、賃料の安さ）を活かし、建替えよりも改修によるスモールビジネス等を望む意見
- ・ ワンストップ相談窓口、インキュベーション事業へのアイデア
- ・ 再開発を行うべき（防災・緑空間の拡大、大ブロック化等）との意見
- ・ 企業誘致のため、「PRやトップセールス等の誘致活動や税制等の優遇が必要」「中華街をPRして、中国をターゲットに」「保育所や高齢者サービス等働きやすい環境づくりが必要」との意見 等

④商店街活性化

(22件)

- ・ 商店街ごとに活性化案をつくり、競い合う。行政は人材育成・活動などを支援すべきという意見
- ・ 商店街活性化の様々なアイデア(個性的な専門店にテナント料等を安く、シネコンやライブハウスの誘致、昭和の街並みにする、アジア等の外国人向けの店の誘致、イセザキ6、7丁目までの回遊、もっとイベントを実施すべき、ダンスをテーマにした商店街等) 等
- ・ 各商店街は、歴史と伝統に裏打ちされた個性と魅力があり、急激に全てを変えることは避ける方がよいとの意見 等

⑤居住

(11件)

- ・ 商業だけでなく、都心の暮らしの場としてのあり方について、もっと踏み込んだ政策を求める意見
- ・ 欧州の町を参考に、シルバーで活性化すべきとの意見
- ・ 低層部に多様な機能(商業・業務、医療・介護、芸術文化等)が入った住宅を求める意見
- ・ 都心生活では駐車場はなくてよい(駐車場附置義務の緩和、隔地駐車場の適用)を求める意見
- ・ 容積・高さ等の規制緩和を求める意見と、一方で、学校等の公共施設とのバランス上、安易に緩和すべきではないという意見 等

⑥公共空間・歴史資産等利活用

(30件)

- ・ 古い建物を残し、歴史を活かす街づくりが大切との意見
- ・ 建築物の規制誘導に関するアイデア(高さ・色彩の制限、レンガ貼りの建物、関外地区の景観制度等)
- ・ 大通り公園、日本大通り、象の鼻パークの演出のアイデア(オープンカフェ、イルミネーション、大噴水等)
- ・ 歴史的街並みづくりのアイデア(ガス灯プロムナード整備や煉瓦・石畳等の舗装整備、レンガ等)

⑦文化・芸術・教育・スポーツ

(21件)

- ・ 多様な活動の拠点づくり(様々な人が交流、企画展示、ワークショップ、ミュージアム等)
- ・ 大学やサテライトキャンパスの誘致、ミニシアター、図書館等の設置についての意見
- ・ 文化体育館・横浜総合高校・横浜スタジアムの再整備・活用についての意見
- ・ マラソン・サイクリングコースの形成についての意見 等

⑧交通

(35件)

- ・ JRの桜木町駅止まりをすべて磯子駅行きにする等鉄道への意見
- ・ LRTの導入についての意見
- ・ 関内・関外エリア周遊、小型電気バス等、バスについての意見
- ・ 1日フリーパス・ワンコインバスの活用等、料金システムについての意見
- ・ 多言語案内サイン、駅からのアクセス、大岡川桜並木の活用等による回遊ルート等、歩行者についての意見
- ・ 駐輪場の整備、コミュニティサイクル、専用レーンの設置等、自転車についての意見
- ・ 川を利用した水上ネットワークについての意見 等

⑨環境

(9件)

- ・ 時代を勝ち抜くには環境が最も大切、との意見
- ・ みなとみらい地区など新興地区だけでなく、古いまちを活用する省エネの取組を求める意見
- ・ 緑が少ないので、街にふさわしい街路樹を増やしたり、屋上・壁面の緑化を積極的にとの意見 等

⑩観光

(15件)

- ・ 世界に誇る横浜港と中華街を資源にすべきとの意見
- ・ ホテルの多さを活かす、安価な宿泊施設を求めるなど、宿泊に関する意見
- ・ 観光バス(市内観光スポット巡り、水上交通との連携等)、鉄道発祥記念施設、鉄道馬車等交通に関するアイデア
- ・ 地元紙や外国人向けガイドブック等、PRに関する意見 等

⑪安全・安心

(14件)

- ・ 安心・安全がすべての基本。黄金町バイバイ作戦でイメージアップにつながったように、街を綺麗にすることは街の品格を高め活性化につながるとの意見
- ・ 安心してまちを歩けるよう、まちづくりにふさわしくない商業施設等をなくしてほしいとの意見
- ・ 耐震化など防災対策の強化についての意見
- ・ 街をきれいにする取組を求める意見(ゴミ、道路上の看板、放置自転車等) 等

⑫エリアマネジメント

(21件)

- ・ 地域の自主性が基本で、行政はバックアップをとる意見
- ・ 組織づくり(地区ごとの取組みと全体の連携、また、常設の活動拠点等)を積極的に行うべきとの意見
- ・ 担い手として産学官の連携(大学・高校には課題ごとの調査研究等)、新住民の町内会加入促進等が大切との意見 等

(3) 新市庁舎整備に関する内容

(92件)

①基本理念・機能

(10件)

- ・ 市民サービス・市民利用、環境、防災に関する機能の強化や、デザイン等に関する意見 等

②規模

(5件)

- ・ 規模の適正化などの意見
- ・ 職員数や業務量を削減し、規模を小さくするという意見 等

③整備パターン・事業手法

(46件)

- ・ 関内活性化や駅周辺整備のために、市庁舎は港町に整備するべき、という意見がある一方、活性化のために市庁舎は北仲通南地区へ移転し、関内駅前には様々な機能の導入を図ることが望ましいとの意見
- ・ 分庁舎については、支持する意見がある一方、分散化が解消されないため、1箇所に集約すべきとの意見 等

④全般

(23件)

- ・ 賃借料等の経費の発生、防災機能・市民サービス機能の強化等の観点から、新市庁舎建設を早期に実施すべきとの意見
- ・ 早期に市の計画案を示すべきとの意見
- ・ 財政負担等の観点から新市庁舎整備を凍結または中止すべきという意見

(4) 活性化計画全般に関する内容

(50件)

- ・ 計画全般について賛意と期待を示す意見の一方で、表現が抽象的、計画の重点がわかりにくい、行政と地元の責任区分を明確に、生活都心の観点を 等の意見
- ・ 関内と関外は性格が異なるため分けて整理すべき、一方、関外は取り残されているとの意見 等

(5) 今後の進め方に関する内容

(21件)

ア 都心連携

- ・ 関内・関外・横浜駅周辺・みなとみらい21は、それぞれ差別化しつつ連携し、大横浜都心を創出すべきとの意見
- ・ あわせて、横浜港のハブ港化推進など、港湾機能の強化が必要との意見 等

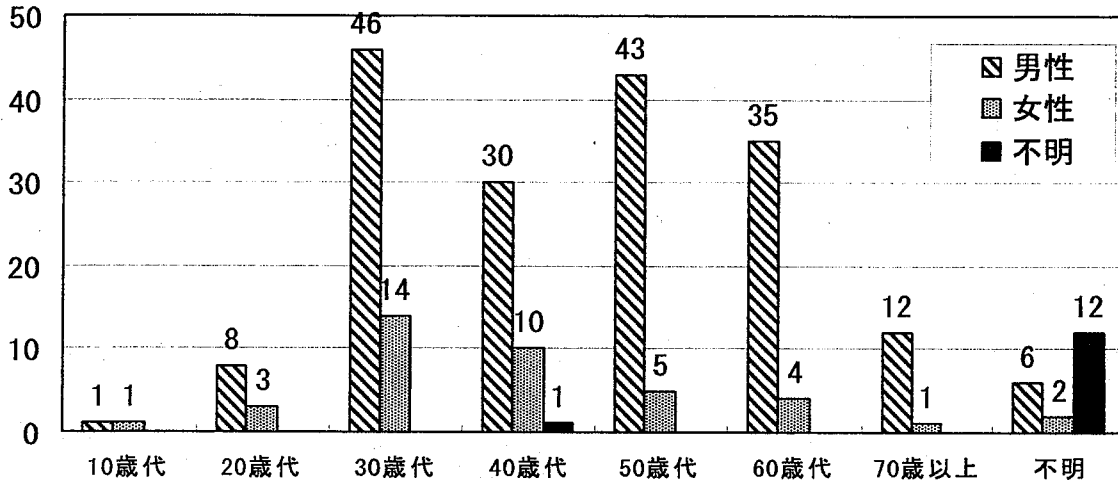
イ 計画のフォローアップ

- ・ 計画倒れにせずいかに実行するかが大切、数値目標・成果検証等進行管理をきちんとすべき、多くの部署と連携すべきなど、計画の実行に関する意見 等

【参 考】意見募集 集計結果詳細

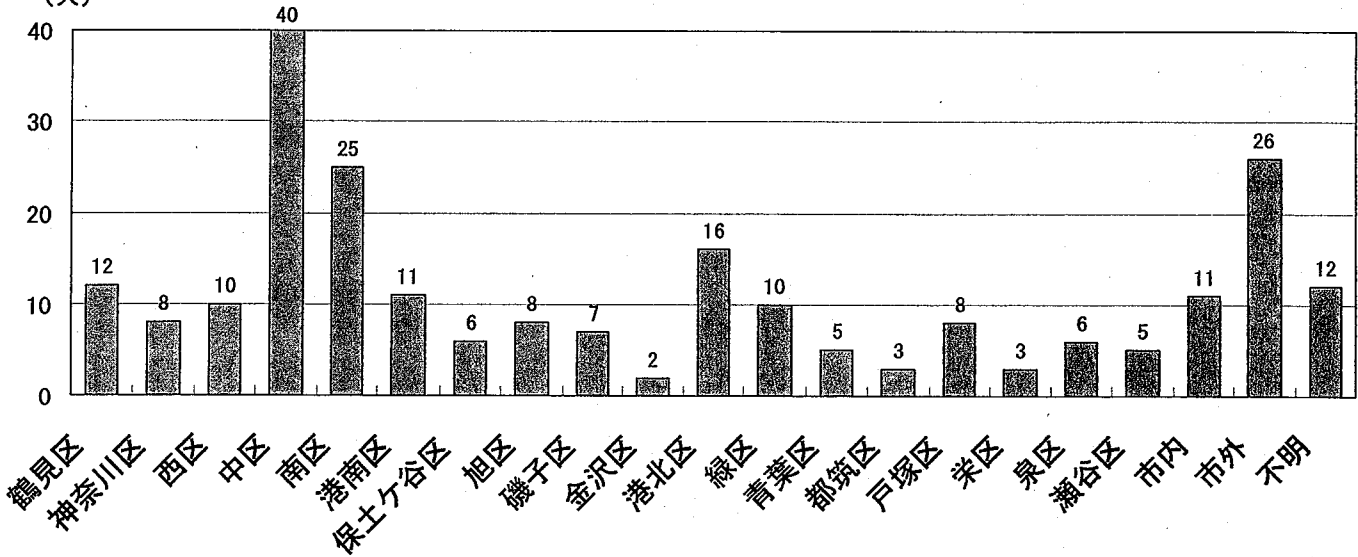
《性別・年齢別》

(人)



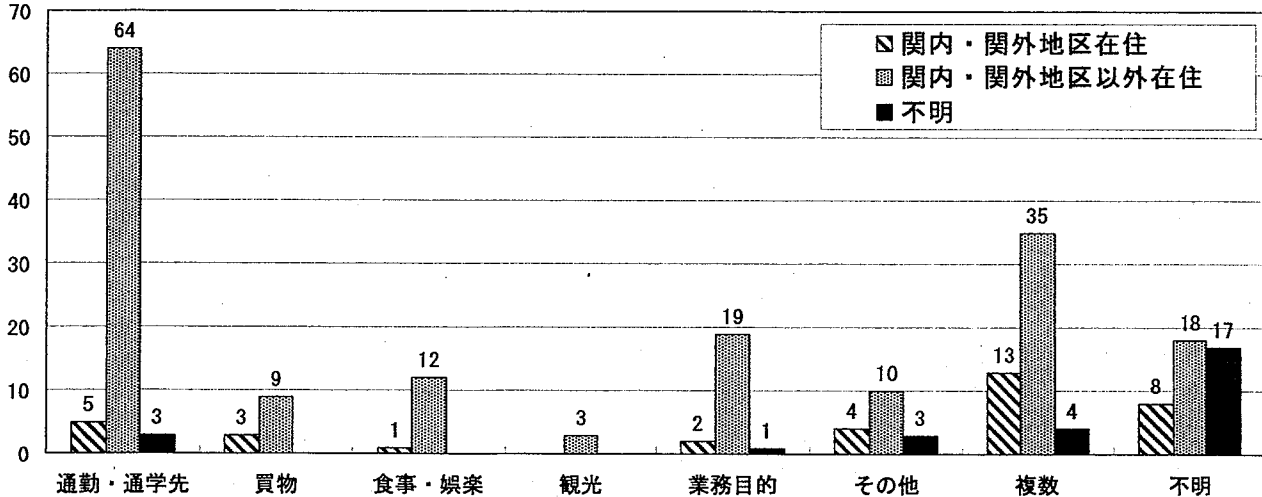
《住所別》

(人)



《来街目的》

(人)



1 開催結果

- (1)開催日時：平成22年2月6日（土）14時～16時30分
- (2)開催場所：はまぎんホール ヴィアマーレ（西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店ビル1階）
- (3)来場者数：215名

2 まちづくり活動の先進事例の紹介（概要）（敬称略）

(1)名古屋市錦二丁目の活性化の取組

【説明者：錦2丁目まちづくり連絡協議会理事副会長 堀田 勝彦】

- ・長者町地区（錦2丁目）は、かつては繊維問屋街として栄えていたが、産業構造の変革などにより、繊維業界が衰退し、空き店舗化やコインパーキングへの転用などの問題が生じていた。
- ・街の記念イベントとして「えびす祭」を開催した際、若手と年配者、大規模事業者と中小企業者が、年齢・立場・業種を超えた交流をしたことで、コミュニティの密度や性格が変わり、空き店舗、コインパーキング対策への問題意識を持つようになった。
- ・まちとして、まちづくり会社を設立し、空き店舗を商業店舗にコンバージョンする「えびすビル」事業や、入居希望が少ないビルの3・4階をベンチャー企業向け施設とする「IDラボ」事業などを実施し、若手・異業種の参入を得て、若者が集まるまちとなった。
- ・錦2丁目地区街づくり協議会を発足。組織ができ、体系づけられることで目指すまちの姿などが明らかになった。
- ・マネジメントとは「なんとか～すること」まちが汚れていれば、皆で清掃する。空き地があれば、何かに利用する、その姿勢が大事だと思う。

(2)熊本市中心市街地活性化の取組

【説明者：株式会社人間都市研究所所長 富士川 一裕】

- ・「中心市街地」の大半を占める熊本の旧城下町460haは、関内関外地区470haとほぼ同じ広さ。
- ・その中心市街地のなかに江戸時代の町人町でかつての繁華街だったところと現在の中心商店街とが並存している。
- ・旧繊維問屋街に数多くあった空き店舗に若者の事業者を募集したところ、それが呼び水となってまちに若者が進出。今では20店舗を越える店舗の集積ができている。
- ・コミュニティに「予期せぬ参入者」である若者が入ってくることで、従来からの事業者も新たな事業展開を始めるようになった。
- ・店内で買物をしなくても気軽に立ち寄れる街の駅のようなものを設置し、それらを廻るイベント「きゃあめぐろ」を実施したのも関連した取り組みの一つ。
- ・まちづくりには、このような連鎖が求められているのではないか。
- ・それぞれの団体の方が、抱えている問題を持ち寄り話し合いをすることで様々な「連鎖」が生まれ、街づくりが展開していく。
- ・熊本大学「まちなか工房」も『街の家庭医』として、そのような話し合いの場づくりや専門的な調査・提案を行いながら、まちづくりのお手伝いをしている。
- ・主要商店街のアーケードの架け替えにあたって実施された全国規模での設計コンペのお手伝いも行った。

2 パネルディスカッション（概要）（敬称略）

パネリスト	名古屋市錦2丁目まちづくり連絡協議会理事 副会長	堀田 勝彦
	株式会社人間都市研究所 所長	富士川 一裕
	伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合 街づくり委員長 関内・関外地区活性化推進計画検討会 委員	牛山 裕子
	社団法人横浜中法人会 会長 関内・関外地区活性化推進計画検討会 委員	近澤 弘明
	馬車道商店街協同組合 理事長 関内・関外地区活性化推進計画検討会 委員	六川 勝仁
コーディネーター	東京都市大学教授 関内・関外地区活性化推進計画検討会 委員長	小林 重敬

【関内・関外地区のまちづくりについて】

（牛山）伊勢佐木町1・2丁目では、後継者を育てたいという思いから「OLD but NEW」という本を作ることにした。3年半かけて発行したが、その成果として、若い経営者が二人、まちづくり委員会に加わってくれた。

また、伊勢佐木町3～7丁目では、多目的なアートに関わることができる建物としてライブハウスを建設する事業に取り組んでおり、伊勢佐木町を知っていただくとともに外から刺激を受け自分達を見直すことができる良いチャンスになると思う。

（近澤）元町のまちづくりにおいて、ハード整備をしてきたが、ソフト面が重要であると認識している。

将来、日本人が減り、中国系の人達などに来てもらわないと横浜は成り立たないと考えており、どうやったら人が集まるか、興味をもってもらうか、訪れてもらうかということを考える広い意味での観光がソフト面として重要になる。

（六川）馬車道は、本物のガス灯、レンガ等を使用して、まちづくりを行っており、現在、大人の本物の街を目指した取組を実施している。

【まちづくりの人材確保について】

（堀田）えびすビルやIDラボという新しいプロジェクトを行った際に、外部から来た人達に、あなたも街の人だよと言いつけ、街の人意識を持たせて、イベントに参加させていくことを意図的にやっている。

（富士川）熊本市が、活性化の支援策として、大きなプロジェクト推進のみに気をとられず、街の人の自主的なワークショップなどに対して地道に支援してきたことが、成功につながった。

別々に活動していたグループが、一緒に集まる場ができると、お互いの活動を知るようになり、それぞれの活動に別のグループの人が参加し、活動の連鎖が生まれる。

【活性化による経済効果について】

（堀田）近くのOLをターゲットとして、空き店舗を活用した飲食店を開店させたところ、ランチタイムだけでも相当な集客があった。人が多く通ると問屋から小売へと商売を変えて利益を上げる動きが出てくる。このように、だんだんと経済効果も生まれてきている。

（富士川）超有名な演奏者も無報酬で呼んでいるアートプレックス（街かどコンサート）では、直接の経済効果より、こんな街に魅力を感じて住みたいと思う人を増やしたいという精神でやっている。それが廻りまわって経済効果につながっていくと考えている。

【まちづくりの資金について】

（堀田）地縁による従来の町の人からの会費と併せて、「志縁」という協賛企業の会費の二本立てにした。IDラボでは、ベンチャータウン推進委員会がオーナーとの交渉からセッティングまでする代わりに、

仲介業者から仲介手数料の50%をまちづくりの資金に入れるという仕組みを作っている。

(小林) 地域に根付いた宅建業として、まちづくり活動による地域価値の上昇を活かすため、仲介手数料の半分を地域の活性化にまわす仕組みを正式なものとする筋道は考えられないかと思っている。

(富士川) 大きなスポンサーだけに頼るのではなく、一つに集中せずにポケットをたくさん持っておくということが重要であると考えている。

(牛山) 伊勢佐木町1丁目から7丁目において、まちづくりに対して、負担できる資金がそれぞれ違うので、できるところで協力してもらい地域を形成していくしかないと思っている。

(近澤) 元町は、賦課金委員会というところが、各店舗の売上げに応じた賦課金を徴収し、まちの宣伝費に活用することや、商店街事務局、各店舗、クレジット会社が話し合っ、カード手数料の一部をまちづくりに活用することに取り組んでいる。

【まちづくりの拠点づくりについて】

(堀田) 名古屋市から3年間、家賃50%補助をもらい「まちの会所」と名付けて、街の人や、開発のプロから学生まで、みんなが寄れる場所を作った。ここに来れば街の情報が取れるとなると、街に出店したい人までも来るようになった。

【エリアマネジメントについて】

(近澤) まず危機感を共有し、次に志を共有し、同じ方向に向かって進めていくことが、エリアマネジメントだと考えている。自分達がやりたいことを考え、自分達で実行することが重要で、横浜市は、支援するスタンスが必要である。その時は、統一したマネジメントを行ってほしい。

(小林) これまで、道路・公園・広場等（社会資本整備）をつくるなどして公共が主導的にまちづくりを行ってきたが、これからは、まちをつくるエリアの人と人の関係（社会関係資本）をしっかりとつくることの方がまちづくりにとって重要になってくる。

(牛山) 伊勢佐木町は、商店街の中に、マンションができてきて、価値観がそれぞれ違うようになり、コミュニティづくりが難しくなっている。エリアマネジメントは、まず小さいところに核をつくり、そこから徐々につなげていくような形で気長にやらないと難しい。

(小林) 様々な方々が関係してくるエリアでは、比較的広いエリアで柔らかなマネジメントを行い、別に商業者等だけで集まるマネジメント組織が、場合によってはエリアを限って活動するという2層性を作らないと一体的に活動するのは難しい。

(六川) 課題や価値観が違うことにより動きが鈍くなるため、エリアは大きくしない方が良いと思うが、いくつかのエリアが集まって、情報交換する協議会のような組織は必要である。

(堀田) 地元がやりたいことをまとめて、行政も支援するということが、エリアマネジメントの正しい出発点であると思う。

(富士川) 地元が今何を必要としているかをわかってもらうため、行政は、常に横にいてもらいたい存在である、と活動実績を積んだリーダーは言う。

(小林) 過去に一度隆盛を極めたエリアとして地位を出来るだけ長く維持していくためには、時代に合わせて様々な新しいノウハウや知恵を獲得して、エリアマネジメントを展開する必要がある。

【活性化のアイデア】

(六川) 観光の具体的な策として、回遊性を強化するために、みなとみらい線の横浜駅から元町中華街駅までをすべて各駅停車にすること、ガス灯を増やしてガス灯プロムナードをつくること、コミュニティサイクルを活用することなどを検討する必要がある。

創造産業の集積について、クリエイティブな方々が集まり、横浜に行けば、面白いことがあり、クリエイティブな仕事ができるというイメージを早くつくるべきだと思う。

第4回 関内・関外地区活性化推進計画検討会（3月8日）における主な意見

●進め方について

- ・計画において、短期的、中期的、長期的に分けて考え、できるところから手をつけていくことが必要である。その中で、まず最初にできることは、関内駅周辺の再生だと思う。
- ・これだけ大きな計画全体を一気に動かすのは、難しいので、とりあえずどこかが進んでいるということが重要である。
- ・野毛地区としては、結節点の強化により、どれだけ良い影響があるのかと考えている。自分達のエリアだけで考えていると、考え方が小さくなるので、今回この会に参加して広い見方の他の地区の取組みが参考になった。
- ・野毛地区は、最近色々なことをやっていて、野毛地区の取組みを学ぶこともあると思う。
- ・伊勢佐木町から港の方に、散歩道のように歩いていくような回遊性を重点的に見直すべき。
- ・エリアが広すぎるとまとまらないので、関内・関外地区全体から関内の中心地区にもう少し絞り、そこが燃えるような発火点となり、動いていくことを願う。
- ・計画は、行動しやすいという視点でまとめる工夫が必要である。
- ・関内・関外地区という場所は、街区と建物のプロポーションが合っており、非常に魅力的なデザインの可能性を持った街である。その地区にマンションを、これからきれいに並んで建てることや、低層部に店舗などの賑わいをつくるためには、地権者が収益のみを追求するのではなく、資産の一部をいい街をつくるために提供できるかということが重要になる。
- ・隔地駐車場の運用検討は非常に有効な施策であり、その実現には、拘束力のあるきめ細かな計画をつくらなくてはいけない。
- ・地権者がバラバラな方向を向いている街と、地権者が同じ方向を向いている街では、行政の対応が違っていても良いと思う。例えば、銀座では、地権者が同じ方向を向いている銀座まちづくり会議という組織があったため、中央区が積極的に隔地駐車場を進めた。
- ・計画を作った後は、経済的な支援などの動かす手段を考えた方がいい。市の内部でも都市整備局だけでなく、色々な部署が連携して進めていくべきである。
- ・市庁舎整備については、関内・関外のまちづくりに、どのように寄与するべきかという視点を入れるべき。
- ・横浜市のように、駅から歩いて1分で市庁舎がある政令市は他にないので、計画の具体化は、関内駅周辺を含めた市庁舎整備から手をつけるべきである。
- ・観光が重要であり、土日祭日に人を集めるために外から人を呼ぶ仕組みをつくるべきである。集まった人たちの移動手段として、LRTを推進したい。
- ・神奈川県も加わっているカジノ研究会が立ち上がり、新港ふ頭の赤レンガ倉庫をカジノにすることは、話題性もあり、現実的であるため、観光の目玉としてカジノの計画を進めるべき。
- ・観光では、かなり広いつながりがある鉄道網ができつつあるので、みなとみらい線を使って、色んなところから人を呼び込む仕掛けを、鉄道事業者と街の方々が一緒になって企画しても良い。
- ・野毛では、春・秋の大道芸で、2日間でも多くの人を集めており、また特色ある飲食店が力を持っている。それらをあわせてどのように人を集めていくかを検討している。
- ・海外では、イベントの365日一覧表があって、毎日必ず何かやっている地区がわかるものがあり、大手町・丸の内・有楽町地区もそうしようとしている。関内・関外地区全体で、どういうイベントをやっているかということ連絡会のようなもので考えるだけでも共通の認識が高まる。

- ・まちづくりは、多くの局が関係してくるので、スムーズに進めるためにワンストップ相談窓口が必要である。また、社会実験として、いくつかできることがあるので、さっそく手がけるべきである。
- ・例えば国がこういう社会実験をやりたいと言った時に、関内・関外地区にまず打診にくるような街にならないといけない。

●まちづくりの拠点について

- ・シンポジウムでは、名古屋市錦2丁目の「まちの会所」や熊本市の「まちなか工房」という、大学の関係者等が詰めて、まちづくりの情報を発信するまちづくりの拠点づくりが印象に残った。
- ・まちの拠点、たまり場のようなところが大切である。そこでは、夜、リラックスした状態でいいアイデアが出てきて、やる気も高まり、そういうことを続けることにより、実行されていくことになる。
- ・まず最初に、拠点づくりから進めるべきと思っており、場所がない場合などは、少し行政も支援することも考える必要がある。
- ・伊勢佐木町3～7丁目では、クロスストリートという街の拠点を3月末にスタートする予定である。街の人、近隣の商店街や町内会の人から協力を得ながらやっていこうと思う。

●事後評価について

- ・市民意見にもあるように計画をつくって、その後、計画内容がどう実現していくのかということの評価していくことが必要である。また、計画の中には、既に取り組んできた内容もあるので、従来からの取り組みがどこまで進んでいるかを整理することも重要である。
- ・資金づくり、活動が継続できる仕組みや評価検証する組織が必要である。
- ・これまでも、まちづくりをやってきており、現状だけで考えるのではなく今までの実績を評価して、どう進めていくかという共通認識を持つことが必要である。
- ・計画を1度作ったら変えないのではなく、数年おきに見直すことも必要である。また、状況の変化を見守る組織をつくり、自発的に地元の人を変えられる計画とすべき。

●組織について

- ・この検討会のように各地区の代表者が集まる全体会議では、具体的にできることを短期間で決めて実行するのは難しいため、分科会を創設することが必要である。また、それぞれの地域では、分野ごとに役割分担し活動しているので、こういう全体会議にも、各分野の人がオブザーバーとして参加できるようにしてほしい。
- ・市で具体化しやすい施策を考えているのであれば、分科会や評議委員会といった地元と密着した会合において検討し、実現していく必要がある。
- ・この計画は、実現すれば日本一の都市となるが、行政だけではなく、市民や企業の力がないと進められない。そのためには、地元の我々がやらなくてはいけないんだという意識づけをどうやるのが重要で、エリアマネジメントが大きな要になる。
- ・各々の地区の様々な商店街やまちづくり団体等がまとまって協議会のような組織を立ち上げ、情報交換等を行う必要がある。
- ・関内・関外地区では、色々な組織が動いているので、当初は情報交換する程度の連絡会のようなものとし、最終的に協議会のようなしっかりした組織に育っていけば良い。
- ・今後は、行政主導ではなく、皆さんが主体的に、連絡会や拠点をつくり、こんな活動をしたいから協力するよにと、行政を呼び出すような取組みをすべき。
- ・関内地区の中心部は、横に8つの町内会あり、縦にベイスターズ通り振興会や関内中央振興会等があるので、それらをまとめて、拠点づくりに活かせるような組織にしようとしている。